

# マイトーク MY TALK

発行：中央大学放送研究会OB会(会長/砂岡茂明)

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成26(2014)年12月

## 第15号

2014年は、地球規模で大災害が頻発、大勢の方々が犠牲となりました。人類が作り出した英知が環境破壊に一役も二役も係っているとすると、平穩無事でいられる日々感謝しなければと思いつつ、全国各地におられる放研OBの方々がご健勝でご活躍されます事を祈念致します。

## 放研OB会の存在意義

OB会長 砂岡 茂明(十二期)



世の中には、いろいろな集団が存在します。身近なところをみても、市町村、自治会、町会のような住環境に起因するもの。学校、会社、NPO、各種団体のように機能に起因するもの。また、スポーツサークルや文化サークルのような趣味に起因するもの。また、所属していた集団がその所属を離れても集団を構成する同窓会、OB会という存在があります。

まさに、「放研OB会」がそれに当たります。会社や団体などによっては、OB会も盛況を極めているところがあります。しかしながら、この場合は、年齢構成が複雑なことや現役時代の上下関係が持ちこまれる場合が多い。「放研OB会」は、学生時代の四年間を同じ趣味の放送文化(?)を追求してきた仲間が、卒業後、職業として、放送関係に携わった者、趣味は学生時代で終え、放送とは全く無関係の職についたもの等進路は多岐に亘るが、一時代を同じ趣味で繋がったものの集団として存在しています。

中大放研は一昨年、創立六十年を迎えました。創業期のOBは、八十年代半ばに達し、入学したての現役は、十代後半です。これだけ年齢差があっても総会や周年行事で顔を合わせると、「今の放研の組織はどうなってるの?」「どんな番組を作っ

ているの」など自然体で会話が弾みます。不思議なことだと思います。OB会員の中には、同期は大切にするが、先輩や後輩はあんまり関係がない。従って、OB会の行事にも出席しないし、会費も滞りがちの人もいます。

でも、はたして、そうでしょうか。創業期を除いては、先輩、後輩で構成した研究会が存在し、その伝統のもとで四年間会活動を行ったわけです。また、自分たちの活動結果が後輩に連綿と引き継がれ六十数年に亘る会活動が成立しています。

堅苦しい話になりましたが、私自身、OB会の役員を引き受けている関係で、先輩や後輩、現役生と会う機会が多いのですが、放研というDNAが流れている人たちが年齢の離れた人たちとの接触は本当に楽しくありがたいことだと思っています。

中央大学には数々のサークルがありますが、文化系でこれほど続いているOB会も稀有なことと思っております。百周年まではとても生きながらえないと思えますが、この歴史・伝統を継承して後世につなげるのが我々役員に課された使命と受け止め、会の運営に努めている次第です。

会員の皆様には、大いにOB会を活用して戴き、OB会が続いていて良かったとの気持ちに少しでもなつて戴きたく拙文で巻頭を汚した次第です。

## 提案—OB会を白門支部に

川口 稔（十七期）

昭和二十七年（一九五二）に産ぶ声を上げた放送研究会、以来六十数年の永きにわたり、文化サークルとして脈々と今日に至って居ります。OB会も今やオールド世代と呼べる世代からミドル・ヤング世代といえる諸氏まで拡がっております。社会の変化と共に意識の変化もあります。また大学本体もお茶の水から八王子への移転等により大きく様変わりしました。OB会の存在価値も見直す時がやって来ている様です。その様な中で、放研OB会も大学のOB会組織、学員会の支部として加盟できないかと云う提案が十七期の川口さんより出されました。以下のレポートを参考にOBの皆様の忌憚のないご意見を同期会等を通して話し合われたらと思っております。

二〇一八年問題をご存じでしょうか。少子化の影響による大学の淘汰が、二〇一八年から激化するというものです。ここ数年横ばいを保っていた大学受験者数が二〇一八年を境に一段と減少するのです。経営困難に陥り消滅する大学が続出するおそれがあり、各大学は魅力ある大学創りを目指し知恵を絞っております。母校中央大学も例外ではありません。中大OB・OG（学員と呼ぶ）のための同窓会組織「中央大学学員会」も大学当局と一体となり、組織の存亡を賭けて進むべき道を模索しております。魅力ある大学創りには学員の協力が不可欠で「学員ネットワークの拡充と強化」を基本方針の第一に掲げ、学員団体に対し様々な

支援策を提供しています。

一方、我が放研OB会の現状はどうでしょうか。二〇一八年どころか既に存亡の危機を迎えています。千名を超える会員が在籍しながら総会・懇親会等の行事に参加するものは常に百名足らず、年二千元の会費も大して集まらない。このままでは機関紙「マイトーク」の発行も危ぶまれ、会費納入者のみに発送すべきとの意見も聞こえ、消滅への道を辿っています。

何故でしょうか、一つにはOB会に魅力がないこと。「OB会は好きな人にやらせておけばいい」「同期会はともかく、OB会には何の世話にもなっていない」：よく聞く声です。では同期会からどんな世話を受けているかと問うと、取り分け面倒を見てもらったわけでもない。要はOB会には共鳴する話題や体験が存在しないからです。内向き閉鎖的組織のため換気システムが不十分なのではないかと思えます。半年前に大いに話題になった地方議会と同様、閉鎖的組織は衰退します。もっと外界との接触即ち母校を基にした外部組織とのコミュニケーションを増やし、新鮮な空気を取り入れるべきではないでしょうか。学員会の支部団体として正式に加盟し、大学当局や他支部との交流を深め時流に即した情報を提供すれば、OB会を見る会員の目も変わるのではと考えます。前述したように、幸い学員会は現在新規団体に支援金を支給するなど加盟促進策を講じており、また放研OB会も会員数等の加盟要件を十分満たしています。今が絶好の機会と考え、「OB会を白門支部に」と提案します。

なお、加盟した場合のメリット等は以下の通り

です。

### I 加盟のメリット

1、「白門」名の呼称が認められ支部旗が授与される

（例えば放研白門会、白門放研支部等となるが、白門を付けなくても良い）

2、加盟時に十万円が支給されるなど各種支援金が支給される（会計報告が必要）

3、ホームページ開設時に補助金が支給される

4、「学員時報」（中大OB情報誌）への登載が認められる

5、大学当局及び他支部との交流を通じ多方面の情報が収集できる、又それを現役に提供し現役の活動・就職に役立てる事ができる

6、母校評議員候補者等の推薦

7、その他

### II 加盟にあたり検討すべき事項

1、学員会行事参加についての対策

2、OB会と支部との運営方法の調整（人事、総会等）

3、その他

### III 中央大学学員会の概況

1、学員会の主な事業

①学員時報の発行

②父母連絡会との交流

③学術講演会の後援

- ④ 母校評議員候補者等の推薦
  - ⑤ ホームカミングデーの実施
  - ⑥ ゴルフ大会の開催
  - ⑦ その他
- 2、支部の現況
- 支部総数……………二三二
- 地域支部（札幌・沖縄、海外）…一一五
- 年次支部（卒業年次による支部）…六二
- 職域支部……………五四
- ① 国会白門会、南甲倶楽部など職種による支部
  - ② ゼミを母体とする支部
  - ③ 企業等で組織する支部
  - ④ サークルを母体とする支部  
 体育連盟サークルのOBで組織する「学員体育会」などがあるが、文連サークルOBで組織するものは辞達クラブなどごく少数である。
  - ⑤ その他
- ※詳しくは中央大学学員会ホームページをご覧ください。

## 昨今の放送研究会事情

（他大学との関わりの中で）

焼山 直紀（六十四期）

放送研究会は今年の春に第六十六期となる四十名もの一年生を迎えた。私が見てきたここ二、三年間だけでも放送研究会の学内、学外での立ち位置は大きく変化しているように感じる。そこで今回は二つの視点で放送研究会という団体の今を見ていこうと思う。

現在の放送研究会（以下、放研）は映像・音響・



アナウンスの三つを主軸として各々が好きなように作品を創作することを活動としている。年に四回ほど行われる番組発表会（番発）でそれらの作品を発表するのだ。その中でも映像作品の占める割合が非常に高くなっている。これはカメラやPCの普及化によるところが大きいだろう。映像作品と一口に言ってもドラマ、ミュージックビデオ（曲に合わせて映像を付ける）、バラエティーなど様々な種類がある。多くの会員が自ら脚本、監督、撮影、編集まで手がけることが殆どだ。

次にサークル活動の主たる目的である番発に他大学の観客を集める為に行う渉外活動についてだ。殆どの大学に放送系のサークルが設立されている。大学の枠を超えて、強い団体同士の繋がりが形成されているのだ。自らの番発により多くの観客を招き入れるために行われている交流活動を渉外活動と呼んでいる。番発を成功させるために無くてはならない活動だ。

その中でも、中央放研は十大学放送連盟に加盟しているため早稲田、慶應、上智、明治、立教、青学、千葉、一橋&東京女子との繋がりが強い。年に二回はこれらの大学と協力して、大規模な番発を行っている。

このように内輪だけでなく、外との繋がりも重視している現在の放研はこれからも成長を続けるだろう。私も十二月で引退し、OBの身となるが今後も番発に足を運んで後輩の成長を見守るつもりだ。番発は四月、八月、十一月、十二月に開催される予定なので、足を運んでいただければ幸いだ。

# 放研の思い出

伴 信昭 (十八期)

中央大学在学中、私はCHKに所属し、学生運動の真っ只中で大学生活を送りました。CHK活動の時は、皆と協力して行動していましたが、苦労や失敗も多く有ったと思います。

今となつては懐かしい思い出ですが、その様なCHK活動状況を振り返ってみました。

## 〔ドラマ用擬音・ボートを漕ぐ音〕

先輩から、〃ボートを漕ぐ音〃がドラマに必要なので用意して欲しいとの要請を受ける。

仲間と話し合いの結果、ボート場で実録〃との結論に至り、諸般の状況から北の丸公園、千鳥ヶ淵に出向き、実行は夜中と決定、予定通りある日の夜半に決行しました。

夜中の為、閉まっている門を乗り越えボートの無断使用(ただ乗り)で録音を開始し最初は順調に行っていたのですが、そのうち池のアヒルが餌を貰えると勘違いしたのか、〃ガーガー〃と何羽も集まってしまう、録音どころでは無くなり、早々に引き上げざるを得なくなり録音を終了、何とかアヒル登場前の最初の部分を使用する事で対応しました。

## 〔ドラマ用擬音・ヨットの帆の音〕

先輩から、〃ヨットの帆の音〃がドラマに必要なので用意して欲しいとの要請を受ける。

仲間と話し合いの結果、商店の日よけテントのバタツキ音録音〃との結論に至り、これも夜半に駿

河台下の神保町書店街に出向き適した日よけを探して録音を実施。

当時の日よけは大半が布張りでガラガラとチェーンで出し入れをするタイプが多い。

既に夜中の為、殆んどの日よけが終い込んで有る為静かに日よけを引き出し録音準備。

然しながら、日よけをかかなりばたつかせないと言にならない事が判明。

商店の人に気付かれない様にする為、本番一度で実行と決めるが、なかなか旨い具合に行かず数度の実行となり、その内に商店内に明かりが灯り〃誰だ!〃との男の声、機材を抱え一目散に逃げ帰りました。

この録音も何とか使用可能となり対応出来ましたが、日よけを無断でお借りした書店の方、ご迷惑をお掛け致しました。

## 〔成田三里塚闘争〕

先輩から、成田三里塚闘争〃を象徴する、杭打ちの音〃を実録せよとの命を受け、重たい携帯録音機(デンスケと呼ばれる肩掛けタイプの十キロ程の重さがあると思われる録音機で、電子回路はバッテリー駆動、メカは手巻きぜんまい駆動、五号サイズ以下のオープンタイプテープ使用というものです)を担ぎ現地に赴きましたが、想像以上に厳しい検問に合い、ひ弱な体型で気の弱い私は屈強の機動隊と小競り合いが出来る状況では無く、機動隊との押し問答の結果、杭打ち現場には行けずじまいになるという最悪の状況になってしまいました。

既に杭打ちも終わってしまい、同行した仲間と

の話し合いの結果、手ぶらでは帰れないと言う結論に至り、最終的には民間放送局(多分TBSに頼み込み、録音済みの〃杭打ちの音〃をダビングさせて貰うという手抜き方法でこの場を取り回しました)。

私共の状況をご理解頂き、ダビング機材も快、ご提供頂いた親切に感謝・感謝でした。

## 〔加藤登紀子コンサート〕

有る年、白門祭のイベントとして、加藤登紀子コンサート〃が開催され、これを録音する事になり、録音の為にマイクを講堂ステージ上のセーターに設置(センターマイクのワンポイントスレオ録音、マイクは通称〃Gベロ〃と呼ぶタイのもの)する指示を先輩から受け実行するが、ステージ上の天井の足場は殆んど無く又強度の弱いな材料ばかりの足場でした。

転落の恐怖と戦い乍も何とか設置しましたがこの時の記憶はこの恐怖感のみで、加藤登紀子んの歌を始め他の事は何も記憶に残っていません。

その時の録音が残っていれば聞いてみたいもです。

## 〔駿河台本校地下のブースター〕

駿河台本校地下の食堂の脇に数人で満杯にな小さなスタジオと調整室を備えた設備が有り、また。

調整室に有る基本的な設備は調整卓・レコー、プレーヤー・テープレコーダーです。

他にマイククロホン・ケーブル等も有りますが

細かなものは省略します。

基本的に、ボリウムは丸型、真空管式が殆んどです。テープレコーダーはオープンリールタイプ・レコードプレーヤーはオイルダンプ式アーム使用と言う今ではなかなかお目に掛かれないタイプのものと思います。

対応する部員が少ない場合は、時として一人で全てを操作する必要があり、通常、二本の手だけでは操作が出来ないので、当時は一人で対応する方法を実行していました。

複数のボリウムを同時に上げるには肘から先の右腕を使い同じ位置まで動かす。(大型の丸ボリウムが同じ高さで近接して設置されている為可能)

プレーヤーは頭出しを完了させておき、左手で操作、その時にテープレコーダーを同時操作する場合は左手に工夫を加え、必要な場合は足も使え、と先輩が教えてくれました。

ドラマ収録時に実際に上記方法で対応し、完了出来た事で実証する事が出来ました。

今とは、社会事情も経済環境も全く異なる時代ですが、放研活動を通じて知恵と工夫と努力と度胸を持って対応すれば、協力者の援助も加え、難しいと思われる事でも何とか成し遂げられる事を体験する事が出来ました。

この事が海外での単独業務の多い今までの私の人生に大いに役立っており、非常に感謝している次第です。

## 私の履歴書

大西 真緒 (十八期)

日本経済新聞の最終面に「私の履歴書」というタイトルのコラムがあります。

各界の著名人自らが、ご自身の輝かしい半生を連載するコラムですが、功も、名もない、私が、同じタイトルで寄稿するのは、汗顔の極みですが、現職がキャリアアカウンセラーで、履歴書や職務経歴書という名称に馴染んでおります事でご容赦をお願い申し上げます。

先日一通の封書が拙宅に郵送されました。放送研究会十八期同期の大悟法安路氏からの機関紙発刊に際し、寄稿文募集のお知らせでした。

十八期の卒業年度は、綾小路きみまろの冒頭のセリフ「あれから四十年…」を五年も超えた一九七〇年です。

不調法の私は、卒業時より今までの四十五年間を熊の冬眠の如く全くの没交渉と音信不通を決め込んで参りました。

この四十五年間に放送研究会のOBにお逢いしたのは、今回お知らせを頂いた大悟法氏が劇場中継の音響技術者で来訪、私の勤務する劇場で東の間言葉を交わした三十数年前と、その五年後、十七期の損害保険会社へ入社なさっていた北島先輩から勧められたゴルフ保険加入の時のたったの二回です。

さて何はともあれ、機関紙「マイトーク」の寄稿にあたり課題は自由との事で、在学時を振り返

ると、高橋克己の「わが心は石にあらざ」に感と影響を受けつつ、半可通ながら学園生活と俱部活動に勤しんだ四年間が思い出されます。

なかでも「放送研究会の思い出」として真っ先浮かぶのは、白門祭開催時に設置されたサテライスタジオから流された「君の行く道は、果てしな遠い…」との歌詞で知られるテレビドラマ「若者」の主題歌です。

このテレビドラマ「若者たち」は、俳優座の手俳優の瑞々しい演技と、一途な若者の生き方が、清新な青春群像劇として当時大変な評判を呼びました。

不謹慎を承知の上で申し上げれば、母校の校は、歌詞もメロディーも忘却の彼方ですが、「若者たち」のテーマ曲と「惜別の歌」は、三子の魂の例え通り、今でも心揺さぶられます。この感動は、多少後ろめたさも同時に覚えます。と申しますのもこの感動を正當に受け継ぐの功績のある一年先輩の十七期の方々であり、私ち十八期の後輩は、感動のお裾分けに預かったな記憶も御座います。

時を同じくして学園祭のエピソードとして、何と言っても東大駒場祭のあの鮮烈なキャッチピートの斬新なポスターです。

「止めてくれるなおっかさん、背中銀杏がいている、男東大どこへ行く…」のコピーに高健主演「唐獅子牡丹」の映画ポスターに模した柄が衝撃でした。

当時現役東大生で、卒業後イラストレーターから作家に転向し、「桃尻娘」が、ベストセラー

なり不動の地位を築いた橋本治氏、快心の作品です。

この橋本治氏は、卒論が「鶴屋南北」で歌舞伎は勿論、先輩作家の三島文学にも造詣が深く、後年緒形拳主演で企画制作した中里介山の名作「大菩薩峠」のスタッフを迎えた時、制作の合間、往時を懐かしみ、話に花を咲かせると言うささやかな役得にも与かりました。

また惜しまれつつ早逝した夏目雅子主演映画の「なめたらいかんぜよ…」の名セリフが話題となった宮尾登美子原作の「鬼龍院花子」「陽暉楼」を、菅原文太を迎えて舞台化しましたが、佐藤勝氏を映画同様、音楽監督として起用しました。

この佐藤勝氏は、何を隠そうあの「若者たち」の主題歌を手がけた作曲家です。黒沢映画の殆どの劇中音楽を手掛けた後、東映に籍を移し、大活躍した映画音楽の第一人者で、ギャラも安くはありません。

偶々ギャラ交渉時にこの「若者たち」のエピソードを披露しました所、偉く気に入られ、氏からギャラの値引きを申し出て呉れるという予想もしない幸運を手に入れました。

そんなエピソード経験の三十年間の演劇製作を経て、生意気にも独立し、二本の舞台劇をプロデュースしましたが、時はバブル崩壊による日本経済が破綻し、企業は、文化活動から一斉に手を引き、とても演劇製作で生計を立てる環境になく…、と言って転職に活かす資格も技術もなく、途方に暮れた時、ハタッと浮かんだ商売がこの再就

職支援のカウンセラーでした。

前職のプロデューサーという職種は、スペシャリストと言われる専門技術や知識はありませんが、其々の専門分野の調整役を担い、強いて言えばコミュニケーションスキルが、売り物です。

「これまでの演劇プロデューサーとしてのスキルを活かして、再就職支援のカウンセラーとして貢献したい」との型通りの志望動機で何とか採用され、三年間勤務後、現在は、東京都の公益財団のしごとセンターで就職相談アドバイザーとして十一年目を迎えます。

このしごとセンターとは、前々職の石原都知事の肝入りで、開設された施設で、ハローワークの職業斡旋に留まらず、「より良い転職の自立支援に徹する組織」がうたい文句です。

前職では、「愛する男の為に身も心も捧げる薄倅のヒロインの物語」の企画制作を手掛け、三食昼寝付の専業主婦の紅涙を絞る事に腐心してきました。

現在は、パーテーションで仕切られたブースで、再就職を目指す登録者の相談業務に、従事しております。ここを訪れる利用者の苦渋の告白をカール・ロジャースの来談者中心主義のマニュアルの傾聴を神妙に実践し、「積極的に転職活動を展開されるご利用者への自立支援を図る施設ですの、主体は飽くまでもご自身です。その事をご理解下さい。」との弁解を述べて、今日も五十時間の初回面談に臨みます。

## 仙台・南三陸の被災地視察

佐久間 良平 (六期)

二〇一四（H二十六）年六月二十九日（日）仙台駅二階のステンドグラス前に、十時二十五分、空路大阪から石河敏子さん、東京から桃川龍一さん、林宏祐さん、砂岡茂明さん、仙台市内から黒沢健さん夫妻、それに佐久間良平の七名が集合した。

早速、駅前に待機していたマイクロバスに乗り、東へと向かった。

三年前の東日本大震災で仙台市は五三一人が死亡（H二十三・四・十一発表）。津波は海岸から四km奥まで到達した。今回は近隣地区の現状を見て歩く旅となった。



車は先ず、荒浜地区に入りました。そこはかつて住宅地であったが、瓦礫はすでに撤去されたものの、住宅の土台だけが残る空き地と化していた。車は南に進



み、名取市閑上地区、閑上中学校前に停車した。コンクリート三階建の校舎は流失を免れたが、校舎正面の時計の針は地震発生時の二時四十六分まで止まったままになっており、玄関前には津波の犠牲になった十三名の生徒の名前が刻まれた石碑が立ち、花束が供えられていた。(合掌)

名取市内の蕎麦処で昼食をとったあと、仙台東部道路に入り、多賀城市経由で松島観光の起点である塩釜に到着。松島湾遊覧船に乗るころには、それまで降っていた雨が強くなり、雨にかすむ島々を趣深く眺めた。

十五時十分、この日の宿泊地である高台に位置するホテル大観荘に到着。部屋は四階の海側で、松島の島々が一望でき、展望露天風呂からも絶好なロケーションを満喫できた。夕食時は元気に再会できたことに感謝の乾杯。食事中的話題はどうしても既往症のことなど、健康にかかわることに偏りがちであった。二十一時過ぎに金沢から空路、藤原尚武さんが遅れて到着し、これで今回のメンバー全員集合。砂岡さんが用意したDVDで学生時代の写真を鑑賞し、五十年前に経ちかえり時を忘れて歓談した。

翌日九時三十分ホテルを出発、三陸自動車道を進み、途中登米市の道の駅(もくもくハウス)に立ち寄りクラフトショップで木製品を見学、眺めただけで買いもせず車へ戻った。

南三陸町に入ると間もなく赤錆びた鉄骨むき出しの旧防災対策庁舎に到着した。ここは町役場職員だった遠藤未希さんが二階の放送室で、津波がきますと懸命に避難を呼びかけ続け、十五・五メートル津波にのみこまれ、町職員など四十二名とともに犠牲になった場所だ。(合掌)

南三陸町では仮設の「南三陸さんさん商店街」で昼食をとる。新鮮な海の幸を提供してくれ、土地の人の頑張りや食事の美味しさを感じ取った昼どきであった。

予定していた青葉城観光をとりやめ、十四時五十分仙台駅へもどり、そこで空路戻るひと、新幹線で戻るひと、それぞれ再会を約束して別れ、二日間の旅程を終えた。

遠路、思い出づくりに参加してくれた仲間感謝いたします。

## 十五期

### 北海道函館・洞爺湖での絆の旅

堂前 綾子 (十五期)

新潟県人から札幌住人になって四十六年、今やすっかり「どさんこ(道産子)」。

旅、特に露天風呂大好き人間になった私です。

この度、十五期の仲間たちと、北か南かサーどっち、北海道は道南と決定。

齋藤剛さんに幹事となって頂きプランを練ってもらいました。

「温泉宿は私に任せて、リーズナブルホテルを知っているから…」とドンと引き受けました。

二〇一三年十月一日〜三日、二泊三日の函館・洞爺湖の旅、十名が参加。



いよいよ当日、久し振りの同期の旅行に胸ふくらませ、羽田空港に集合。齋藤、大村、小澤（鹿児島より羽田へ）、横井、壇浦（旧姓梅原）、安倍（旧姓飯島）、堤、高村（失礼して敬称略）、そして大阪より広瀬さんが函館で待ち合わせ、私堂前（旧姓柳沢）は東京にいましたので皆さんと北の地へ飛び立ちました。

飛行場よりレンタカー二台に分乗し、無事函館にて広瀬さんと会い、まずは五稜郭に行き五稜郭タワーより星形の城跡を見学。

聞き及びの歴史を語りますと長くなりますので、土方歳三の像に挨拶してホテルへ向いました。

## 一泊目

函館湯の川温泉・湯の浜ホテル。

ホテルの下は海、ドブーンと砂浜に波が打ち寄せてはかえり、ホテルの窓右手に立待岬（たちまちみさき）。

夕食はバイキング、ビールで乾杯で盛り上がり、【夜は函館山の百万ドルの夜景】と言いたかったのですが、生憎頂上は夕方からの小雨でもやがかり全然見え、誰か日頃の行い悪くない！しかし帰路のロープウェイでは途中より何とか写真が撮れるほど視界が良くなり、感激。

戻って泉質抜群の湯船に浸り、部屋で再度乾杯。翌朝「波のバック演奏で樽の露天風呂、何人入ったかな？」

## 二日目

晴天、「函館朝市」にて皆さんお待ちかねの海の幸堪能。



「金森倉庫群」を歩き、函館湾西館港の橋の欄干で並んでパチリ。

函館湾をまっすぐ見下ろすこと出来る坂道、「八幡坂」で全員でパチリ。

散策し

て、残念ながら広瀬君はここで帰阪、名残惜しく分かれ一路大沼国立公園へ、大沼越しに見える駒ヶ岳の美しさにも感動。

名物の大沼団子を食べ、散策。

遊覧船で食事出来るのよネ？の女性の問いかけに、大村さん「予約制だつてよ」本州メンバー事前情報速い。

高速道にて三時間、ちよつと長さを感じ「洞爺湖」着。

チェックインだけにて、山の上にあるサミット会場として使用されたウインザーホテルを見学。

ロビーと百八十度洞爺湖を見渡せる庭を一回りし、暗くなつた山頂を後にして宿泊先の洞爺サンパレスホテルに戻りました。

入浴は後にして、まずは食事。

国外の方も大勢いる大きなバイキング会場にて再度ビールで乾杯、疲れも吹っ飛び賑やかに楽しい一時でした。

それぞれに露天風呂などに入浴後、湖水上での花火を部屋から見学、ベットのうえで見ていた人は仕掛け花火が見れず、エー残念。

## 三日目

最後の朝も晴天、まじかに湖水を眺めながらの朝食を皆笑顔一杯で、腹一杯。

湖畔で記念写真をパチリ。

そしてここで私と、テレビ局にお勤めの息子さんに会う小澤さんがホテルの送迎バスにて札幌へ。

他の七名の方々は一路函館へ。駒ヶ岳を眺めながら途中休憩し、大沼国立公園を抜け、風景写真を撮ったり素敵なおドライブでしたとお聞きしました。

函館市場にてまたお土産を買われたでしょうか？

後日、写真を撮って下さった方から写真を送って頂き、楽しかった思い出に浸る時間を頂きました。

【今自分に出来る事をしよう】ですが【これも健康だからこそ】ですよ。

今回の旅はそれぞれの考え方で楽しんだかしらネ。

とにかく何事もなく（レンタカーの運転・幹事の齋藤さん、小澤さん。お疲れ様でした。そして有難う御座いました）無事に三日間を楽しく皆様と過ごせましたことに御礼申し上げます。



# 十三期旅行記

前田 紘子 (十三期)

はじめに

あれは平成十年の放研四十周年祝賀会の折、久々に顔が揃った同期の誰言うともなく、これからは毎年会おうよ、で始まった旅行会、以来重ねて十五回。時々エピソードを残しながら滞りなく続いている。

担当幹事は地元や、仕事の拠点としている者が名所旧跡、祭りを案内。員子さんは姓に因んで水上温泉を企画するなど、旅は西に東に、ほぼ全員が旅行幹事を務めた。

平成二十年、青楓の美しい京都・大原三千院や祇王寺での集合写真に、往時の四人娘も揃って笑顔で収まる館さん(浪久芳美)。これが彼女との最後の別れになるうとは…。現身に時と歳は様々にまつわり、参加メンバーは揃いづらくなつたものの、現役時代にも増した親近感に満たされる我々が同期会である。

西の三都物語の集大成「水の都・商都大阪」平成二十五年十月十五、十六日、幹事は因田さん。阪神淡路大震災復興の象徴となった「神戸ルミナリエ」と「知られざる京都」に次ぐ表題のテーマで、今回も意を尽くしてくれた。

初日、折から台風接近で雨模様。集合地であり宿泊先でもある大阪第一ホテルは駅前。ロビーに川鍋、越、佐藤さん等の一行、程なく関空経由で札幌から乗安さん登場で、全員集合。ヤーヤー元氣だった？から始まって互いの健康状態や常用

の葉、孫とのあれこれなど、お定まりの老人三題話と相成った。次に健康上や諸事情でやむなく欠席となった仲間たちのいきさつが語られたが、ここにこうして集える事こそ何よりの近況報告。

さて一日目は大川(旧淀川)を遊覧船アクアライナーで巡るプラン。大阪城、造幣局、中之島公園を水上から眺める四十五分の遊覧コース。ホテルを出て雨の御堂筋を淀屋橋へ。銀杏並木はやや黄ばんだ程度。いくつかの橋を渡り淀川べりを散策しながら発着所へ。林立する高層ビル群と明治大正期のクラシカルな建物(美術館、市庁舎や造幣局など)が絶妙な融合を見せている。やがて際立つ大阪城の偉容。淀の水面はゆったりと流れ、意外なほどきれいだった。雨のせいでいささか肌寒かったものの、さすが歴史ある商都の景観は圧倒的な存在感をみせつけた。

夜はホテル内の会場で懇親会。あらためて近況を語り合う。飲むほどに気分は一気に学生時代へ。もう時効だからと、某氏の告白話は五十年前の日々を彷彿させ、予定を一時以上延長させた。

二日目は風がやや強いものの、晴れ間がのぞく。ここ数年の再開で変貌著しいJR大阪駅北側の複合施設「大阪ステーションビル」をのぞいてみる。この辺りは元JRの操車場跡地で広大な空き地であった。平日の午前中というのに階上はるか上に伸びるエスカレーターは訪れる人で隙間もない。流れに乗って階上へ。企業のショールームは最新技術のオンパレード。多彩にプレゼンテーションしている。ショッピングモールには、海外ブランドや全国展開の有名店があか抜けたレイアウトで気分を誘う。レストラン街の一角には

開店前だというのに、早くも長蛇の列。人数制限付き。成程、近畿大学出店の養殖マグロの寿司店であった。

オフィス棟を含め、大阪市とJRが巨額を投じたこのインテリジェントビル、関西圏の沈下傾向脱却への先駆けとなりうるか。大阪都構想ともからみ興味深い。

レストラン街で昼食後自由解散。因田さんと私は浪速の演芸を楽しもうと、天満天神脇の落語の常設演芸場「天満天神繁盛亭」へ。ここは関西落語界長年の悲願だった落語専門の定席小屋。五代目桂文枝(旧三枝)等が中心となって、平成十八年完成。大阪の若手落語家達の登竜門的存在とか。久しく寄席へ足を運ぶことも無かった私にとつて久々の寄席である。開場までの待ち時間に天満天神さんへお参り。やがて開場のふれ太鼓。整理券に従って亭内へ。席料二千五百円のところ、六十五歳以上割引で二千円。客席数百名程度か。バスツアーの客も入って満席。舞台中央に大座布団と小机(目台)、お題を書いた「めぐり」が持ち出されたが、これはお茶子さんと呼ばれる着物姿の若い女性の仕事。いよいよ出囃子と共に噺家さんの登場。

羽織の脱ぎ方、タイミングも江戸とはちよつと違う。一番の違いは机の上で「小拍子」と呼ばれる小さな板状のものを話の合間や場面転換でチョンと打つことであろうか。若手から中堅、ベテランが登場したが、印象的だったのは創作落語。関西特有の粘りっこい、ズバリの表現での語り口が面白く、大笑いして大満足。送り太鼓に尻押され、気分よく繁盛亭を後にした。

夕暮れにはまだ早く、そぞろ歩きに良からうと、日本一長い「天神橋筋商店街」を案内してもらおう。南北二・六キロ、直線では日本一の長さを誇り、約六百店が並んでいる。色々な店が混在していて、生活感溢れ、活気があって安い。こういう場所大好きな私、大阪でなければ野菜に魚に甘いもの、使い勝手がよさそうな雑貨など両手に下げて帰りたいところ。気分をそそられながら歩いて眺めて小半時、環状線で大阪駅へ。

ここで番外のサブライズ一席

夕なずむ梅田の雑踏の歩道橋の上から大高先輩（十一期の馬場さん）発見!! 思わず、馬場さん馬場さん〇〇と大声で手を振った。先輩、訝しげにあたりを見回している。

目の前の新阪急ホテルでお茶とケーキの御馳にあずかった。プールの帰りとか。公私にわたるご活躍ぶりをうかがいつ、変わらぬ若々しさのその理由（わけ）がうかがえた。

さて帰り際には新幹線構内の美味しいうどん屋まで教えてくれる気配り目配り、さり気なく細やかな因田幹事。「西の三都物語」集大成、満足でありました。

次回はお借りで、嬉しいお知らせ。

余白をお借りして、嬉しいお知らせ。同期の乗安充和さんが平成二十五年春の叙勲で瑞宝小授章を受章されました。乗安さんは昭和四十年三月に久留米の陸上自衛隊に幹部候補生として入隊し、北海道から九州まで二十回の転勤を経験し、平成十四年九月に陸上自衛隊一等陸佐として北部方面教務隊長を最後に、退官するまでの三十八年にわたる功績に対しての受章でした。

## 満開の桜に酔う

因田 宏効紀（十三期）

放研十三期は十九名と比較的少人数です。小野忠一郎君と浪久（旧姓館村）芳美さんが永眠されています。今年も同期会が開催されました。数えて十六回です。年々集まる人数は減ってきましたが、旧交を温めています。今年の春は桜の時期に合わせて平成二十六年四月二日（木）三日（金）東京に集まりました。

レギュラー参加は十名ほどですが、今回は前田紘子（東京）川鍋光利（東京）越満（東京）佐藤猛志（横浜）乗安充和（北海道）渡邊萬壽男（岐阜）因田宏紀（兵庫）の七名が参加、人数的にはやや寂しくなりました。

四月二日午後一時市ヶ谷アルカディアホテルに集合しました。同期会の日程に合わせるかのようにJR市ヶ谷駅からの堤防沿いは桜が満開です。佐藤幹事はさすが用意周到、桜とビールとおつまみを既に準備、前田女史が心のこもった季節感たっぷりの竹の子ご飯と春野菜のお惣菜を持参してくれ、到着するなりまずは満開の桜の下で急遽お花見宴会と相成りました。



宴会をほどほどにして、ほろ酔い加減で、靖国神社から千鳥ヶ淵、日

本武道館へ散策、ウィークデーにもかかわらず、な人手の中、見頃の桜を満喫した後、昭和館へ来て昭和をしつかり懐かしみホテルに帰りました。

アルカディアホテルの別室でテーブルを囲近況報告や昔話に花が咲き、あつという間に二時半の制限時間をオーバー。川鍋君の音頭取二次会のカラオケへ繰り出しました。全員が知っている歌に限定したら、昭和館の影響もありのことながら昭和の懐メロばかりが続々と登全員で懐メロ大合唱大会。多少耳は遠くなる

まだまだ声だけは良く出ていました。皆元気なです。翌四月三日は朝から雨模様、予定通り魚市場と築地本願寺を訪ね、美味しいお寿司昼食をとり解散となりました。毎回場所を変え開催してきましたが、徐々にあつまりにくくなってきたので、一人でも多く参加しやすいよう一回からは東京に集まることとまりました。たしていつまで続くかわかりませんが「会えに会っておきましょう」を合言葉に別れました。

個人的には世田谷在住の娘と孫に会え、何人友人や知人も話が出来、帰る途中名古屋在住の四歳の姉を見舞うも叶いました。



桜満開の東京が百周年の歌劇の我が宝塚へ帰ると冷たの雨です。「春にの晴れなし」とは、言ったものですが、地よい疲れの有意義五日間の旅でした。

## 三期（十）十二期 合同同期会開催

高橋 俊次（十二期）

平成二十六年九月十六日に、大津のプリンスホテルにおいて十期〜十二期の三期合同同期会が開催されました。



この会は、十期が卒業以来初めての同期会を開催する計画が持ち上がった折に、どうせなら他の期にも声をかけて盛大にやろうとのことで声をかけたところ、十一期、十二期から快諾を得て合同開催に至ったそうです。

司会は、十三期でひとり参加した関西在住の因田君が担当しました。この集まりには十期川島、川島勝子、嶋田、嶋田夫人、鈴木暁美、花岡、十一期伊東、阿部、河合、水嶋慶子、山下の各氏がまた十二期からは、近内、斎藤、菅根、鈴木正勝、富岡、内田、小山、関、高橋、北上、石井、河口、砂岡と多数が参加しました。

発起人の嶋田先輩は車椅子生活を余儀なくされていますが、お声は元気で現役時代の澆刺さを髣髴させるものがありました。

宴会では、放研時代の思い出話（秘話も）や、卒業後の状況や健康、趣味に関する話題など多岐に渡り、あつという間に予定の時間を過ぎてしまいました。

二次会はホテル最上階（三十八階）の展望バーで行われました。大津、琵琶湖一帯の夜景がすばらしく印象に残りました。十時半頃には解散となりましたが、聞くところよりますと十一期のグループはその後も部屋で深夜まで飲み明かしていたとのこと。

合同同期会で親交が深まり、次へ繋がったのではないかと思います。先輩のみなさん、お礼を申し上げます。

## 叙勲を受けて

伊藤 輝久（十四期）

平成二十六年秋の叙勲で瑞宝単光章を賜り、身に余る光栄と感激しています。十一月六日、警察本部長から勲記、勲章の伝達を受け、十一月十三日に皇居に参内しました。国賓を迎えて宮中晩餐会が催される宮殿「豊明殿」において家内ともども天皇陛下に拝謁しました。

天皇陛下から「昭和の激動の時代に、皆さんが各方面にわたる危険業務に尽力されたおかげで、日本の多くの治安が保たれ、現在の平穏があります。今後の健勝を祈っています。」等のねぎらいと励ましのお言葉を賜り、感激と共に過去の事象が走馬灯の如く脳裏を駆け巡りました。

警察在職三十六年間、安保闘争に伴う広島大学封鎖解除、シージャック事件、暴力団抗争事件、広島大学教授殺人事件、中国駅伝先導、尾道市長殺人事件、アジア大会警備、バスジャック事件等々、数え上げればきりがありません。

警察官を拝命した時は正直、志を高くもって入ったわけではありませんでしたが、年数が経つにつれて警察の責務である『個人の生命、身体及び財産の保護、犯罪の予防、鎮圧及び捜査、被疑者の逮捕、交通の取り締まりその他公共の安全と秩序の維持に当たる』という崇高な使命が自覚できるようになっていきました。今ではわが人生は間違っていないなかつた、充実した気持ちでいっぱいです。叙勲を受けた日の夜は、在京同期のメンバーに祝宴をもつていただき、感謝に堪えませんでした。

放送研究会とは関係ない話しようですが、実は放研での経験が仕事上でも役立ちました。

以下はその話です。通信司令課(一一〇番)に在職中でしたが、事件、事故が発生した時に、警察署やパトカーに無線で連絡するのですが、勿論ぶっつけ本番で、リハーサルなどありません。即座に事件事故の内容を間違いなく、的確に指令しなければなりません。失敗は許されないので。そのとき放研仕込みの『外郎売(ういろうり)』が随分役立ちました。それが認められ、中野の警察大学で行われた「無線競技会」の全国大会にも出場しました。また、警察現役時代は演芸部長のニックネームをもらい、演芸会や結婚式の司会を十数回行いました。現在も老人会の会長等五つのボランティアをしています。老人会演芸大会、敬老祝賀会、秋の例大祭等の司会も引き受けています。

これも中央大学放送研究会劇団部でしごかれた経験が、現在の自分を支えてくれていることと感謝しています。

今後も地域に奉仕する活動をして、地元に戻しをしたいと考えています。遠く広島に住んでいますが、今後ともよろしく願っています。



## ホワイトボード

### 会計報告

(平成二十五年四月一日～平成二十六年三月三十一日)

平成二十五年年度の会計監査が平成二十六年七月十九日に中央大学駿河台記念館三一〇号室で、若尾佐藤両会計立会いの下、浅見、谷井両監査人によって行われた。厳正な監査のあと浅見監査人から、同年度の会計処理は瑕疵なく適切に処理されたとの報告があり、同日行われた役員会並びに幹事会でそれぞれ承認された。

収入の部	金額
前年度繰越金	2,006,135
雑収入	294
年会費(前期分)	0
年会費 26年03月31日現在 30名	188,000
合計	2,194,429

支出の部	金額
会場費	29,766
会議費	23,578
慶弔費	32,025
事務費	9,605
機関紙・名簿・CD制作費・発送費	465,732
備品	2,980
繰越金	1,630,743
合計	2,194,429

### OB会ゴルフ部会・報告(於 武蔵野ゴルフクラブ)

第三十四回 二〇二三年十二月五日(参加者十六名)

優勝 大悟法安路(十八期) 二位 塩沢邦男(九期)

三位 及川信行(十二期)

第三十五回 二〇二四年四月三日(参加者十五名)

優勝 堤 美沙(十五期) 二位 若尾英樹(十二期)

三位 河合昭次郎(十一期)

第三十六回 二〇二四年十二月三日(参加者十五名)

優勝 近内紀久子(十二期) 二位 塩沢邦男(九期)

三位 大悟法安路(十八期)

※三十五回。三十六回と女性の優勝と言う快挙!

何と言う事でしょうか、男性諸氏も頑張らねば、皆様にチャンスあり。どうぞ多くの方の参加をお待ち致しております。

### 編集後記

旅行好きの人は多いと思う。日常の喧騒を逃れての一人旅気の合った仲間との心の触れ合い旅。不特定多数の中に混ざってのツアー旅行など様々な旅行の形がある。昔は盛んであったが、不況のためか職場全員による慰安旅行などは見られなくなってしまうが、どのような旅であっても非日常的な時を過ごすことは、心癒されるものであり、明日への活力の源となるに違いない。

今回寄稿されたマイトークの原稿の中にも、同期生による旅行記が四編あり、各期とも同期による旅行は盛んであることを嬉しく思う。同期の旅行記を拝読すると、観光は勿論だが、久し振りに再会した仲間との交流を主においている。これが読み取れる。たとえ旅行先が何回か訪れている所であっても旅行会に参加するのは、懐かしい顔に会えるからという一語に尽きると思う。願わくは、同期による旅行会に加えて、期の垣根を越えた旅行会が盛んになることにより、心の繋がりがより広がることを。

最後に、十四期の旅行懇親会での話題の変遷について。六十歳前半は年金の話、孫のはなし、六十歳後半は入院経緯など病気の話。

そして七十歳を過ぎた昨年は樹木葬など墓のはなし。さら次回の話は……?